

Technical Information	
文書番号	SYMC-SMG-140811-1
タイトル	Symantec Messaging Gateway Version 10.5.2-3 リリースノート
対象機器	Symantec Messaging Gateway 8300 Series
ソフトウェアバージョン	10.5.2-3
プラットフォーム	-
参照	-
問合せ先	日商エレクトロニクス株式会社 プロダクト・センター E-mail: npc@nissho-ele.co.jp

■ 本書について

Symantec Messaging Gateway Version 10.5.2-3 に関する情報が含まれています。

■ 本リリースについて

SMG Version 10.5.2-3 は、従来の SMG Version10.5.1-2 のメンテナンスアップデートとなります。

■ リソース

詳細な情報は以下より入手可能です。

<メーカーマニュアル/メーカーリリースノート(日本語)>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=DOC7369&key=53991&actp=LIST&locale=ja_JP

<メーカーナレッジベース(日本語)>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=landing&key=53991&locale=ja_JP

■ サポート対象のプラットフォーム

Symantec Messaging Gateway 10.5.2-3 への更新は以下のプラットフォームで実行できます。

ハードウェアバージョン: 2009 年 4 月以降に購入された 8360、8380、および 2008 年 12 月以降に購入された 8340

■ 新機能と強化点

● Version 10.5 の主な新機能と強化点 (Version 10.0 と比較) は以下となります。

- ・ OS の 64 ビットカーネルへの移行
 - SMG で使用されている OS が 64 ビットカーネルに移行致しました。
アプリケーションについては従来通り 32 ビットとなります。
OS が 64 ビットカーネルに移行された事で、各アプリケーションプロセスが利用できるメモリ空間が従来の 3GB から最大 4GB の領域が使用できるよう改善されました。
従来の 32 ビットに比べ、メモリリソースが枯渇する問題によって発生した Brightmail エンジンや MTA サービスクラッシュなどの改善が見込まれます。
- ・ 電子メールスキャン機能の拡張
 - 新しく Microsoft Office ドキュメントや PDF を含む電子メールの添付ファイルからマクロ、Java スクリプト、フラッシュムービー等の悪用される恐れのある埋め込まれたコンテンツを検出し取り除く「解除」機能が追加されました。
 - スキャン不能の理由ごとに個別の処理を選択することが可能になりました。
- ・ スпам検出の強化
 - スпам検出効果をたかめるため SMG 内部で利用する URL ハッシュがさらに追加されました。
- ・ LDAP 連携による管理者権限の管理
 - LDAP 連携によりコントロールセンターの管理者を、LDAP の OU 別で管理権限を付与し、ポリシーグループに割り当てることが可能になりました。
- ・ ドメイン機能の拡張
 - 登録ドメインからのインバウンドメッセージについて TLS 暗号化通信の要求が可能になりました。
登録ドメインからのメールが TLS を使用して送信されない場合には受信を拒否します。
* 設定するドメインに SMG のローカルドメインは設定出来ません
- ・ アウトバウンド送信制限の追加
 - アウトバウンド配信にて指定された時間(1 分間または 1 時間)内で送信者から送信出来るメール数の制限が可能になりました。

■ 変更された内容

- Version 10.5.1-2 の追加及び修正された内容は以下となります。
 - ・ SMG の管理者 GUI の画面が v10.5 より変更となっております。画面の変更のみとなり、選択できるメニュー項目の位置に変更はございません。
 - ・ From ヘッダに ” や く が 1 つだけ入った不正形式の場合にスパム検疫へメールが配送されずメールキューに蓄積されてしまう不具合が修正されました。
 - ・ ポリシーやグループポリシーを追加・変更するときに保存する設定ファイルのサイズ制限を超えた場合、ダッシュボードにエラーメッセージが表示される不具合が修正されました。

- Version10.5.2-3 の追加及び修正された内容は以下となります。
- ・ 認証局署名の証明書要求が従来は 1024 ビットと 2048 ビットで生成する事が出来ましたが、本バージョンより 2048 ビットと 4096 ビットで生成が出来るよう変更されました。この変更により、1024 ビットでの証明書要求を生成する事は出来なくなりました。
自己署名は従来 1024 ビットのキーで作成されましたが、本バージョンより 4096 ビットとなりました。
- ・ 設定する事が出来る NTP サーバーの数が従来は 3 つでしたが本バージョンより 5 つ設定する事が出来るようになりました。
- ・ SMTP 認証で接続元からの認証に失敗した場合、メッセージ監査ログにはその結果が表示されない問題が修正されました。
- ・ レピュテーション -> ポリシー -> 悪い送信者 -> ローカルの悪い送信者 IP に重複したネットワークアドレスの登録が行われている時に、MTA の再起動を行うと MTA サービスがハングアップする可能性がある問題が修正されました。
- ・ スпам -> ポリシー -> 電子メール の電子メールスパムポリシーの作成したポリシーで [メッセージのバウンス攻撃確認が失敗した場合]の処理を変更した場合、MTA サービスの再起動を行わないと設定した処理の内容が動作に反映されない問題が修正されました。
- ・ 1つのドメインに大量の(数百の)MX レコードが存在する場合に、該当ドメインへのメッセージの送信を行おうとした時、MTA のクラッシュが発生する問題が修正されました。

■ 日商ナレッジ

- ・ メッセージ監査ログの検索結果が最大設定値の 1000 件を超えた件数が表示される場合があります。
1 通のメールで複数の宛先が含まれている場合、To 毎に件数が表示されるために、検索結果で表示される件数は最大設定値の 1000 件を超えた件数が表示されます。
- ・ メッセージ監査ログの処理に「メッセージを中止する」と表示される場合があります。
「メッセージを中止する」とは送信元から SMG へメール送信する通信中にセッションが終了した場合に記録されます。
調査方法は、SMG が接続されている SWITCH 側にてパケットを取得後に、送信元と SMG のどちらがパケットを切断しているかご確認下さい。
SMG が切断している場合には日商エレクトロニクスにて調査させていただきます。

■ 既知の問題/注意事項

現在、Version 10.5.2-3 で確認されている問題は以下となります。

こちらに記載の内容以外の問題に関しましてはメーカーリリースノートをご覧ください。

-
- ・ 管理 -> 設定 -> LocalHost -> SMTP タブにある[アウトバウンド非ローカルメール配信]を”MX ルックアップを使う“に設定した場合、配送キューに滞留したアウトバウンドメールが状態 -> SMTP -> メッセージキューの画面にある[新しい経路]に指定したリレー先に転送できません。
-
- ・ ウイルスのアクションがクリーニングで RAR 形式の圧縮ファイルからウイルスを検出した場合、圧縮内のウイルスのみ削除せず、RAR ファイル自体が削除されます。
この動作により RAR ファイル内のウイルスに感染してない正常なファイルも削除されます。
-

-
- ・ Vontu Network Prevent 機能はサポート対象外とさせて頂いております。
-
- ・ 複数台構成において ScannerOnly の機能を使用して 1 台の ControlCenter で集中管理する構成を日商エレクトロニクスが構築していない場合、保守サポートのご提供はいたしかねますのでご了承のほどお願い申し上げます。
 - 2007 年 10 月 10 日以前に上記構成で日商エレクトロニクスと保守契約をご締結のお客さまは引き続きサポートさせて頂きます。
-

- ・ レピュテーション > 悪い送信者の「シマンテックグローバルの悪い送信者」を有効。「SMTP 接続を拒否する」、「SMTP 接続を遅延する」を選択した場合、拒否や遅延以外の動作になる場合があります。

- 動作説明経路:

MTA1⇒MTA2⇒SMG の経路で SMG へメールを送信した場合

- MTA2 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合は拒否、遅延の動作を行います。
- MTA1 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合はメールを一度受信している為に拒否、遅延の動作が出来ずに次の動作になります。
 - 拒否を選択している場合: メールが削除され受信者にメールが届きません。
 - 遅延を選択している場合: メールが削除され受信者にメールが届きません。

また、送信者に対して以下のバウンスメールを送信します。

件名: Returned Mail

本文: I'm sorry to have to inform you that your message could not be delivered to one or more recipients. It's attached below.

For further assistance, please send mail to <postmaster>

If you do so, please include this problem report. You can delete your own text from the attached returned message.

This message has been blocked.

-
- ・ コマンドラインを使用してサービスを停止した場合に、管理画面からサービスを開始することが出来ません。
-
- ・ HTTPS で Control Center へアクセスする際には TLS1.0 が有効である必要があります。TLS1.0 が無効または SSLv2.0 と SSLv3.0 のみ有効の場合にはアクセスする事が出来ません。
-
- ・ FIPS モードはバックアップに含まれません。復元後は手動で変更する必要があります。
-
- ・ 状態 → SMTP → メッセージキューの検索フィルタでカスタム経路にワイルドカードを利用して検索するときに意図しない結果が表示される場合があります。
-
- ・ 管理 → 設定 → ログのコンポーネントログレベルの解除のログレベルを変更後、保存ボタンを押しても設定した内容を反映した動作を行うことが出来ません。
設定を反映させるためには保存を実行後、CLI より以下の MTA サービス再起動のコマンドを実行してください。

CLI> service mta restart
※本コマンド実行時は MTA サービスの再起動が発生しますので、その間はメールの送受信はできなくなります。
-
- ・ ウイルス/ワーム/スキャン不能の判定の時にメッセージの処理がメールを削除するように指定されている場合、メッセージ監査ログの配信状態では「処理状態」と表示されます。

-
- ・ マルウェア → 設定 → スキャンの設定 → 解除タブの解除コンテンツの種類で PDF のフォントを有効にし、PDF の解除の処理が行われると PDF に含まれる1つのフォント定義で 30 バイト程度メッセージ監査ログのサイズが増大します。これは仕様の動作となります。
-
- ・ 添付されたファイルが Microsoft Office2007 の文章の時にその文章内に「ファイルへのリンク」オプションを使用して埋め込まれたファイルがある場合、スキャン不能と判断されます。

■ アップグレードについて

Software Update(ソフトウェアの更新)にて入手/適用可能です。

※ アップグレード後に自動で OS の再起動が行なわれます。

＜アップグレードの注意事項＞

- ・ アップグレードに伴い SMG から DestURL: swupdate.brightmail.com、DestPort 番号: 443(TCP)の通信が発生しますので、該当する通信をファイアウォール等で許可するようにして下さい。
- ・ アップグレード前にバックアップを作成してください。
- ・ アップグレード前にメールの受信をしないようにして各キューを解除(Flush)することを推奨します。
 - [管理] -> [設定] -> スキャナのホストをクリックする。
 - 「着信メッセージを受け入れない」を選択して保存をする。
 - アップグレード後は「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択して、保存をしてください。
- ・ アップグレードを行う際には検疫メールを削除して頂く事を推奨しております。
 - 検疫メールを削除せずにアップグレードを実施した場合、完了までに数時間かかる場合があります。また正常に起動しない場合もございます。
- ・ 更新開始から完了まで、再起動やシャットダウンを実行しないでください。
- ・ Version10.5.2-3 にアップグレードを行うには Version10.5.1-2 にする必要があります。
Version10.5.1-2 未満のバージョンから直接アップグレードはできませんのでご注意ください。
※Version10.5.1-2 にアップグレードを行うには、Version10.0.3-3 にする必要があります。
- ・ Version8.0.3-11 未満のバージョンから直接 Version10.0 にアップグレードはできませんのでご注意ください。
Version10.0 にアップグレードを行うには Version8.0.3-11 にする必要があります。
 - Version9 未満より Version10.0 へのアップグレード方法は Version10.0 のリリースノートを確認してください。
 - Version8.0.3-11 未満のバージョンをご利用いただいているユーザー様は、アップグレードを行う前に、8.0.3-11 リリースノートを参照ください。

＜Version8.0.3-11 リリースノート＞

<http://www.nissho-ele.co.jp/product/symantec/news/release/v80311note.pdf>

➤ Version 10.5 からのアップグレード方法

1-1. MTA サービスの停止

GUIにて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

1-2. Mail Queue のフラッシュ

CLIにて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

1-3. Version10.5.2-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

10.5.2-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.2-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後、10.5.2-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。

ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

1-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.2-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

1-5. MTA サービスの起動

GUIにて SMG へログイン後に管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version 10.0 からのアップグレード方法

2-1. MTA サービスの停止

GUIにて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

2-2. Mail Queue のフラッシュ

CLIにて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

2-3. Version10.0.3-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

10.0.3-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.0.3-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。その後、10.0.3-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、アップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

2-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.3-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

2-5. Version10.5.1-2 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.1-2 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.1-2 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後、10.5.1-2 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。

ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

※アップグレードを実行中に、正常に更新が完了しても、GUI の表示が反映されない場合があります。反映されない場合は別のブラウザより SMG へアクセスしご確認ください。

2-6. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.1-2 であることを確認してください。

```
>show --version
```

2-7. Version10.5.2-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.2-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.2-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後、10.5.2-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。
再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようご注意ください。

2-8. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.2-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

2-9. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 -> ホスト -> 設定 -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version 9.5 からのアップグレード方法

3-1.MTA サービスの停止

GUIにて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

3-2. Mail Queue のフラッシュ

CLIにて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

3-3. Version10.0.3-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

10.0.3-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.0.3-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。
その後、10.0.3-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、アップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

3-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.3-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

3-5. Version10.5.1-2 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.1-2 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.1-2 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後、10.5.1-2 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。

ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

※アップグレードを実行中に、正常に更新が完了しても、GUI の表示が反映されない場合があります。反映されない場合は別のブラウザより SMG へアクセスしご確認ください。

3-6. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.1-2 であることを確認してください。

```
>show --version
```

3-7. Version10.5.2-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.2-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.2-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後、10.5.2-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。
再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようご注意ください。

3-8. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.2-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

3-9. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 -> ホスト -> 設定 -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version 9.0 からのアップグレード方法

4-1.MTA サービスの停止

GUIにて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

4-2. Mail Queue のフラッシュ

CLIにて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

4-3. Version10.0.3-3 へアップグレードの実施

※CLIでバージョンを指定してアップグレードをした場合、指定されたバージョンにアップグレードされず、最新バージョンまでアップグレードしてしまう不具合が確認されています。バージョンを指定する場合には、管理画面より実施します。

GUIにて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

更新バージョンにて 10.0.3-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後 10.0.3-3 を選択後に更新をクリックし、ダウンロードを行ないます。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。ファイルを事前にダウンロードする事は出来ません。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

4-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.3-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

4-5. Version10.5.1-2 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.1-2 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.1-2 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。その後、10.5.1-2 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

※アップグレードを実行中に、正常に更新が完了しても、GUI の表示が反映されない場合があります。反映されない場合は別のブラウザより SMG へアクセスしご確認ください。

4-6. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.1-2 であることを確認してください。

```
>show --version
```

4-7. Version10.5.2-3 へアップグレードの実施

GUIにて SMG へログイン後に管理 -> バージョン -> 更新を開きます。

10.5.2-3 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.5.2-3 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。その後、10.5.2-3 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、エンドユーザー使用許諾契約に同意しアップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のアップグレード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。
再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようご注意ください。

4-8. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.5.2-3 であることを確認してください。

```
>show --version
```

4-9. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

■ ダウングレードについて

CD リストア以外に方法は、ございません。

<参考:メーカーナレッジベース>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=TECH83295&locale=ja_JP

■ 改訂履歴

2014/8/11 初版

以上